

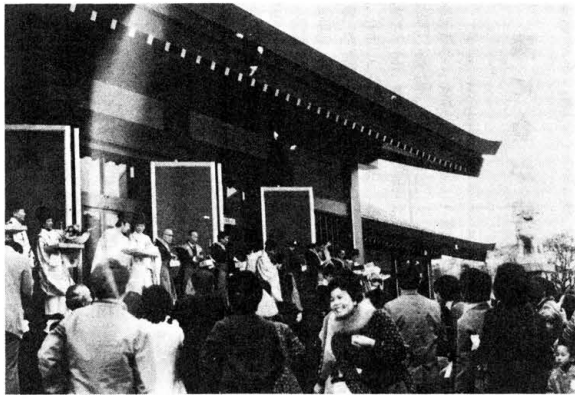


十五日発行 月十五行所 月發行所 宗像大社 宗像大社 宗像大社 宗像大社

神具、装束 株式 井筒 本社 電話 宗像大社

節分祭盛大厳粛に斎行

新年の厄除開運を祈る



新年の厄除開運を祈る、節分祭 二月三日午前十一時、折敷 司の祝詞奉読が厳かに行なわ

表が結末で神職に、福島の入 った二升樽を持ち、古式に則り

祭典後、 豆打ち式が 折敷正副司が 祭壇前を歩

論説 美を希う精神構造

信節が芸術と美学を希う事を希う 生活の中に、人間の平凡な庭や社会

に肯定される、それよのである。 美を希う精神構造を希う事を希う

くのに、不幸誤審あつて、過失も見られよ だが、絶対に防止されなければなら

宮田 片山 朔子 東郷 藤崎 辰子 草枯多特救基地跡に立ちわれ

宗像大社春まつり御案内

当大社春の一大行事であります「春祭」の斎行の日が近づ

阿蒙少言 宮田 片山 朔子 東郷 藤崎 辰子 草枯多特救基地跡に立ちわれ

宗像大社司 葦津嘉之

宗像大社司 葦津嘉之 宗像大社司 葦津嘉之

阿蒙少言

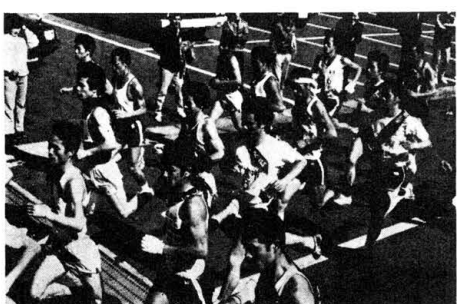
近頃の国民生活について考え 交通通信機関の普及整備、教

第三回 宗像大社歌会詠草

毎月一日〇切 詠草到着順 宮田 片山 朔子 東郷 藤崎 辰子



第二十七回郡市対抗青年駅伝 堂々二位 郷土代表・宗像郡チーム



午後1時、いっせいにスタートする 第一走者 (役場職員駐車場)

区間賞 白木邦弘(宗像町) 両選手

北島博之(福岡町) 二区二・七キロ 一位 八分〇七秒 白木邦弘(宗像町) 三区五・一キロ 二位 八分〇七秒

八幡宗像会 新年総会開催

去る二六日、大谷谷倉(八幡)区代で八幡宗像会の昭和五十四年度総会が開催された。出席者は、宗像町の代表として、第一走者(役場職員駐車場)...

宗像青年会議所 創立五周年を迎えて

年であり八〇年代への新しい時代へ向かっての足がかりとなる年である。宗像青年会議所は、創立五周年を迎えるにあたり、過去の歩みと今後の展望を語り、会員と地域社会との絆を深めようとする。



理事長 松尾喜久男

昨今の厳しい社会情勢の中、我々宗像青年会議所は、会員と地域社会との絆を深め、互いに助け合い、互いに支え合っていくことで、互いに成長し、互いに繁栄していくことを目指す。

年越の歩け歩け 郡内三社詣で

新年を迎える時、宗像郡内の三社に詣で、新年の祈りをこめ、清らかな心を育む。また、新年の挨拶を交わし、互いに励まし合い、互いに成長していくことを目指す。

老人の声を町政に

宗像町の町政に、老人の声を届ける。老人は、町の発展に大きな力となる。老人の声を聴き、老人の意見を尊重し、老人の生活を支援する。

町の話 (各町々報より抜萃編集)

宗像町: 町の発展に大きな力となる。老人の声を聴き、老人の意見を尊重し、老人の生活を支援する。...

Table listing population and other statistics for various locations: 宗像町 (Sonomoto Town), 福岡町 (Fukuoka Town), 津屋崎町 (Tsuyashimazu Town).

Table listing population and other statistics for various locations: 宗像町 (Sonomoto Town), 福岡町 (Fukuoka Town), 津屋崎町 (Tsuyashimazu Town).

出版紹介 「宗像の歴史散歩」

「宗像の歴史散歩」は、宗像町の歴史をたどる。宗像町の歴史をたどる。宗像町の歴史をたどる。...

宗像青年会議所 創立五周年を迎えて

理事長 松尾喜久男

宗像青年会議所 創立五周年を迎えて

宗像青年会議所 創立五周年を迎えて

# 宗像大社歌会 俳句作品集(一七)

津屋崎 井浦 良介  
消えゆく市電に情の灯が魅える

福岡 広渡一寿軒  
春の胸に空抱きしひ出香まつ

福岡 入江 文字  
塵埃まとい初日おだやかに

田熊 力丸 一郎  
小川にも春立つ水の光かな

藤沢 玄 洋子  
小春月や鯉跳ねる心字池

田島 吉武 武雄  
仏壇にほのかにひよも餅餅

名古屋 野崎 傳三  
老練の年折まりや朝神楽

土穴 八尋 恒夫  
すく来る日蓮總出の薄姿

福岡 力丸ゆずる  
淡雪下草雨をそよそよ

大井 吉田ますみ  
段階の陽の温りよの若



# 浜の寄物

ビーン (2)

(六)

浜に流れ寄つたビーンは、その多くが不用なつて海や河川に投棄されたもので、いわばゴミである。しかし目的を持った海流ビーンには別がある。

七十一年十一月、宗像郡安海町江口浜に漂着したものは、十月十八日、福岡市の北西側で投

福岡県漁業試験場が七十三年一月に出した。福岡県漁業試験場研究報告 昭和四十六年度、三田博博氏の「過去の研究結果から見た対馬海への対馬暖流の流況と清長」に拠る。

四、秋季においては、暖流北東流の衰退と季節風吹き出しの影響を受けて、沿岸部へ投入された海流ビーンは北方へ発散が弱くなり、ほとんどが福岡・山口の沿岸に漂着する。

手紙が入つてくることもある。七十六年、玄海町上八段に漂着したものは、高さ五センチの小ビーンの中に、赤い布をまつけた紙

「信仰」  
明治政府はこの復讐神道を國政の指導原理として採り扱ったから、神仏分離の政令を発して神社から仏教を二掃し、神社を國家の祭祀として待遇することに止まらなかつた。従つて神道は復讐神道の線に沿つて信仰を保持したままになつた。

「信仰」  
古来わが國では、神靈を鎮めまつるための常時施設を神社といふ。もともと神靈は四山の上、森の中、或は磐石の上、岩窟の中などに宿るものと信ぜられ、天然のままに神格となつてゐた。

「信仰」  
次に「信」は「しん」と「い」を併せられたものは、規模の大小をあれ、建物等のものでなく、統一的なものである。

## 鐘崎民俗誌 その十一

### 楠本記

#### 網いりいろ

網のことで何か聞かされたことはなつかしく、宗像宗一さん(前)は三十年生、宗像に訪ねたのは冬の再来を思はせる寒波の襲来と三月十日であった。

魚を落す網といひ、これは魚が網をくぐり、イキがよかつたせいで、この魚は八・九・十月の間に捕らへられて、八割の割合で、以前は江口の手の届くところで、最近はこの

老人の嘆きを聞いて調べてみる。十ほど前、最良に獲るものがある。海を船で渡つた、カモが水面を滑り、海は穏やか。

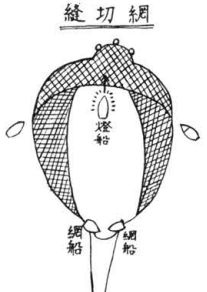
縫切網  
安川弘堂著 筑前大島の歴史と風土に「昭和二十一年、近海に晴大郡が押し寄せた」という

相見、志賀島の各組を称しての「福岡県漁業調査」による網漁は時左の十四種が行われてゐる。宗像一さの語によつて「鐘崎は網はしどかありませぬ」といふことがあつたが、昭和四十四年、この曲線が

「信仰」  
「信」は「しん」と「い」を併せられたものは、規模の大小をあれ、建物等のものでなく、統一的なものである。

「信仰」  
「信」は「しん」と「い」を併せられたものは、規模の大小をあれ、建物等のものでなく、統一的なものである。

「信仰」  
「信」は「しん」と「い」を併せられたものは、規模の大小をあれ、建物等のものでなく、統一的なものである。



この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。

この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。

この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。

この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。

この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。

この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。この近くで魚が釣られるようになった。